令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体名		公益財団法人富山県文化振興財団
施設名		富山県利賀芸術公園
助成対象活動名		人材養成事業
内定額(総額)		1,037 （千円）
	公演事業	0 （千円）
	人材養成事業	1,037 （千円）
	普及啓発事業	0 （千円）

（２）令和４年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	高校生夏期演劇講習会	8/6(土) 3/28(火)、29(水)	1 回目(8/6)　講師　平田オリザ氏 2 回目(3/28･29) 講師：　村井まどか氏他 2 名 カリキュラム：ワークショップ、課題創作、課題発表など	目標値	100 人
		富山県民会館		実績値	148 人
2	利賀インター・ゼミ 2022	9/2(金)～4(日) 9/6(火)	・研究コース：テーマに沿った研究発表、討論会。 ・実践コース：演劇ワークショップと観劇を２日間に分けて実施	目標値	５０人
		富山県利賀芸術公園 富山市民芸術創造センター		実績値	３５人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
＜高校生夏期演劇講習会＞ 世界規模の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 2、3 年度は中止を余儀なくされたため、3 年ぶりの開催となった。 令和 4 年度は、移動距離の少ない富山市内の会場で、夏と春の 2 回に分けて日帰りでの開催とした。利賀芸術公園での合宿形式というこれまでの形にはならなかったが、参加校からは新型コロナウイルス感染症拡大防止を最大限に考慮した、安全を優先した適切な実施方法だったと学校側からも好意的に受け入れられた。 ＜利賀インター・ゼミ 2022＞ A コースは「SCOT サマー・シーズン 2022」の時期に開催し、「演劇の聖地」として知られている利賀芸術公園での観劇や聴講を組み込むことで、地域の環境を活かして世界第一線の芸術作品を創造、発信してきた成功例を実感してもらうことができた。 B コースは、利賀での合宿形式ではなく市内の会場で 1 日のみのスケジュールにはなったが、3 年ぶりに開催することを最優先に考え、地元の次世代の舞台芸術の担い手に学びの機会を提供することができた。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
コロナ禍で舞台芸術が打撃を受け、高校生・大学生にとっては多くの対面での学びの機会が奪われていたが、利賀芸術公園は演劇祭を開催し続けるなど地域の文化拠点としての活動を継続し、コロナ禍での創造、人材育成活動のノウハウも積み重ねてきた。次世代を担う若者たちの創造性を養う場を守り続けたことは、文化拠点としての役割を果たしているといえる。 状況によって、学校側と協議を重ねながら、柔軟に実施方法を検討し、事業を実現できたことは大きな意義があった。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。

＜高校生夏期演劇講習会＞

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
参加校数	12 校	新型コロナウイルス感染症の影響により休止	新型コロナウイルス感染症の影響により休止	14校
参加者数 （参加率 定員 1 回 50 人）	88 人 (88%)			1 回目 97人（194%） 2 回目 51人（102%）

＜利賀インター・ゼミ 2022＞

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
A コース（研究） （参加率 定員 20 人）	17 人（全国 9 大学）	14 人（全国 3 大学）	18人（全国 5 大学） （内オンライン参加9人）	12人（全国6大学） （内オンライン参加4人）
B コース（実践） （参加率 定員 30 人）	38 人 （126%）	2 人 （6%）	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	23人 （76%）

※B コースは富山大学のみ

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、合宿やワークショップへの参加に制限のある大学もあり、インター・ゼミの参加者は例年より少なかった。しかし、高校生夏期演劇講習会とインター・ゼミ B コースでは、3 年ぶりに実際に対面で、触れ合いながらワークショップを実施することができ、演劇本来の共同で創造する経験ができたと好評であり、この事業の重要性を再認識した。

特に利賀インター・ゼミはコロナ禍でオンラインを活用したことで、広く知ってもらうきっかけになった。実際に利賀を訪れてみたいという声が多く上がっているため、来年度以降の参加者増も期待できる。

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
＜高校生夏期演劇講習会＞ 当初の計画通り、高校生の長期休暇期間に実施することができた。初めての試みとして、夏と春の 2 日間に分けて開催したことで、結果的に参加者を増やすことができた。合宿で少しハードルが高いと感じていた参加者にも、気軽に参加してもらえたことも、層の拡大につながった。 ＜利賀インター・ゼミ 2022＞ 例年通りの時期に開催できたことで、参加者が予定を合わせやすかった。 B コースはコロナ禍により、演劇ワークショップが 1 日のみの開催となったが、大学側と調整しながら、実施できる方法を工夫し、成果をあげることができた。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から利賀までの長時間のバスの移動や宿泊を伴う活動を高校や大学側が禁止していたため、合宿形式での事業実施はできなかった。 そのため、高校生夏期演劇講習会では、利賀までのバス借上げ代を富山市内で実施した富山県民会館の会場使用料に充て充実した研修が行えるよう工夫した。 同じく利賀インター・ゼミ 2022 の B コースも 3 日間の合宿での事業を観劇 1 日、富山市内での演劇ワークショップ 1 日に変更し、3 日分の講師代を講師の人数を 2 人に増員して対応し、より充実した事業が行えるよう適切に経費を使用した。

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
＜高校生夏期演劇講習会＞ 夏と春で別の講師が担当することで、幅の広い学びの機会を提供することができた。 国際的に活躍する平田オリザ氏は、鈴木忠志氏ともに令和４年度日本博主催・共催型プロジェクト「自然と共生する舞台芸術――世界の未来に向けて」を立ち上げたり、平成31年度の「第９回 シアター・オリンピックス」で演劇経験者向けに開催したワークショップが好評だったりと、利賀との関わりが深い。 高校生夏期演劇講習会での指導経験が豊富な村井まどか氏は、身体を動かすことをメインにした指導をし、生徒たちも楽しみながら学びを深めていた。 ＜利賀インター・ゼミ 2022＞ A コースでは、アーティストが滞在して創作ができる充実した施設群に滞在し、利賀でしか上演できない野外花火劇『世界の果てからこんにちはⅠ』を観劇するなど、利賀芸術公園ならではの体験を含んだプログラムになっている。特に今年度は、日本初の国際演劇祭「利賀フェスティバル」から40周年を迎えた記念の年であり、写真展やトークの聴講で利賀芸術公園の歴史も学んでもらうことができた。 B コースの講師には、隣県の石川県を拠点とし、令和４年度日本博主催・共催型プロジェクト「自然と共生する舞台芸術――世界の未来に向けて」で作品を発表した、島貴之氏を招いた。 長年に渡り、世界に開かれた文化拠点の先駆として活動してきた実績によって、利賀芸術公園は国内外の優れた芸術家とのネットワークを築いてきた。その人的資源を活かし、一流の講師陣を招き、特色あるワークショップを企画することができている。また、若い世代の演出家にとっては、ワークショップ指導の経験を積む場所にもなっている。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。
＜高校生夏期演劇講習会＞ コロナ禍では自校だけでの練習に限られてしまっていたが、高校生夏期演劇講習会を開催できたことにより、文化芸術に対する若い世代のモチベーションを上げる効果があった。プロの演出家からの指導や他校との切磋琢磨の時間は生徒たちにとって刺激となり、新たな学びを得て表現の幅を広げることにつながっている。 地域の文化拠点である利賀芸術公園に、継続して行ってきたことによる人材育成のノウハウが蓄積されることは、今後、地元から芸術家を輩出するなどの可能性を高めることになる。 ＜利賀インター・ゼミ 2022＞ 過去の参加者が、令和４年度日本博主催・共催型プロジェクト「自然と共生する舞台芸術――世界の未来に向けて」の参加チームとして関わっていたり、観客として毎年利賀を訪れるようになっていたりする。インター・ゼミで文化芸術への理解を深め、感性を磨いた若い世代が利賀の活動に注目し発信していくことで、利賀の意義が広まっていく。 また、利賀インター・ゼミでの学びをふまえて、新たなゼミやプロジェクトが生まれるなどの発展も見られる。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
＜高校生夏期演劇講習会＞ 参加をきっかけに利賀芸術公園や SCOT を知り、SCOT が定期的に開催している「鈴木利賀演劇塾」に応募するなど、他事業に繋がることが増えている。 富山県のウェルビーイングでも、子どもたちや若い世代への芸術教育を重視しているため、まずは国際的に評価の高い文化拠点が自分たちの地元にあることを知ってもらい、利賀芸術公園だからこそ提供できる質の高い文化芸術に触れてもらう機会を創設する。若い世代にも支援層を拡大していくことが、将来的に組織活動を発展させていくための基盤作りになる。 ＜利賀インター・ゼミ 2022＞ 全国のアートマネジメントの学び手から、優れた文化芸術が生まれる場として注目されることが、地域にとっても励みや誇りになっていることで、モチベーションが上がり、組織力の向上が期待できる。 継続の結果、インター・ゼミの運営との関係性は年々強固になっている。利賀を支える支援の輪として、相互に高めあえる大きな存在となっている。